

---

# 相棒 杉下右京の難見沢村事件

すけかく

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

相棒 杉下右京の雛見沢村事件

### 【Nコード】

N9220H

### 【作者名】

すげかく

### 【あらすじ】

警視庁の窓際刑事杉下右京、亀山薫は、杉下の知人の大石蔵人刑事の捜査を協力するため興宮へ向かう、はたして杉下右京は惨劇を阻止出来るか？

## 第一話 「難見沢へ」

### 第一話

「難見沢村へ」 「右京さん、おはようございます。あれ今日も朝から紅茶ですか、飽きないですか」

「君も、朝からコーヒーで飽きないのですか、亀山君」このなにげない会話をしている二人は、警視庁組織犯罪対策五課特命係の杉下右京警部、亀山薫巡查部長。

特命係は、警視庁の孤島と呼ばれる窓際刑事達だ。

窓際部署の二人だが、杉下の推理と亀山の行動力で難事件をいくつも解決に導いた名コンビだ。

亀山がテレビのチャンネルを替えるとちょうど特集が始まった。 「・・・現場監督殺害事件から今年

で五年目ですが 県警本部の懸命の捜査に も関わらず主犯の男性作業員の行方は掴めていません。また難見沢村では毎年6月に怪死事件が起きており、県警は厳重警戒を敷くとともに情報提供を呼び掛けるそうです。」

怪死事件が続くなんてミステリー映画じゃあるまいしね右京さん。」

「難見沢ダム工事現場監督殺害事件からもう五年目ですか、・・・時が経つのは早いです。」

「難見沢ってさっきの連続怪死事件が起きる村ですか・・・難見沢ダムって何年前かに工事中止になったヤツですよね。」 「ええ、完成すれば日本最大

級の水力発電量と貯水量を確保出来るダムとして計画されましたが・・・杉下が何かを言おうとしたが杉下の携帯の着信音に遮れた。

「杉下です・・・官房長・・・わかりました、では後ほど」

「右京さん、官房長がなにか

・・・」 「官房長が話しがあるから警察

庁へ行くようにとのことですが、行きましよう、亀山君。」

警察庁は警視庁の隣に位置し、全国の都道府県警察を監督管理する組織である。

「今年も暑いね、まだ初夏なのにこれじゃ8月は猛暑になるよ。」

「警察庁の一室、杉下達が座るソファーに向かい合うように座る初老のスーツの男性が言った。

「小野田官房長、そんな話しをするためにわざわざ呼び出した訳ではないでしょう・・・早く本題に入ってください。」

初老の男性は小野田公顕、警察庁長官官房室長であり杉下が特命係へ異動になった原因を作った人だ。

「お前は相変わらず愛想がないね、実はある地方警察署に古い知人がいてね、来年で定年なんだけどある難事件を捜査しているんだけど、杉下、亀山君力をかしてやってくれない」

「待つてください官房長そんな急に・・・」

「杉下、そういわないですよ、もう向こうの署にもいつてあるし、それに僕の知人は杉下も知っているはずだよ、興宮署の大石蔵人刑事だよ。」

「大石さん・・・しかし、なぜ官房長が大石さんをご存知なのですか・・・」

「若いときに興宮署に向向したことがあって、でどうする杉下行くの?」

「わかりました。内村刑事部長には官房長が言っておいてください。」

二人は官房長室を出た。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9220h/>

---

相棒 杉下右京の雛見沢村事件

2010年10月9日02時16分発行